

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

【東京女子大学現代教養学部】

東京女子大学は、キリスト教を教育の根本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教養を授け、専門の学術を教授研究し、もって真理と平和を愛し人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。

本学は、建学の精神であるキリスト教精神に基づくリベラルアーツ教育により、「専門性をもつ教養人」として人類・社会の問題解決に貢献し得る女性を育てるために、以下の能力を身につけ、かつ、学則に定める所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位（学士）を授与する。

1. 人間・社会・自然に対する理解を深め、広範で多様な知識を身につけている。
2. 自分の専攻分野に関する方法論と専門知識を身につけ、さらに自分の専攻分野に隣接する分野について基本的な内容を理解している。
3. 知識を活用し、論理的思考力に基づいて、問題を発見し、解決する能力を身につけている。
4. 他者の表現を適切に理解し、自らの考えを論理的に表現し、建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
5. 異なる考えや意見を受け入れる力を身につけ、多文化共生社会への理解を深め、他者を尊重し協働できる力を身につけている。
6. 主体的に学び続け、自己を確立し、自らのキャリアを構築する姿勢を身につけている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【人文学科】

人文学科に哲学専攻、日本文学文化専攻、英語圏文化専攻及び歴史文化専攻を置く。

人文学科は、哲学、言語、文学、歴史を横断的に学ぶことを通して、人間の文化的営為についての能動的な知識と多角的な見識を修め、考究の姿勢、応用能力を社会のあらゆる分野に生かし、人間文化の創造と社会の発展に貢献できる人物の育成を目的とする。

【国際社会学科】

国際社会学科は、国際関係、地域研究、文化人類学を横断的に学ぶことを通して、自分で考え、判断し、人を説得できる力・他文化と共生する力を身につけ、事実よりも感情が影響力を持つ、ポスト・トゥルースの風潮に惑わされない、国際社会で活躍できる人物の育成を目的とする。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

【教員養成に対する理念】

本学は、キリスト教精神を基盤としたリベラルアーツ教育を教育方針としている。これは、他者に対する寛容と対話に基づく共生の精神をもって、既成の概念や秩序に囚われず、知性を磨き、真理を探究することを目標とした教育であり、知識を英知に高め、一人ひとりの尊厳の上に立ち、生きる自信を育むと同時に、他者との「和」＝共生社会を形成することのできる学生の育成を目指したものである。この精神は、「犠牲（Sacrifice）と奉仕（Service）」に象徴され、校章にも刻まれているが、これらの理念と構想は本学教職課程にも反映されており、生徒一人ひとりの自立に向けた発達と学習を、職業的な専門性と広い識見、使命感、責任感をもって支援することのできる教員の養成に努めている。

【養成する教員像】

本学教職課程は、建学の精神および学位授与方針に基づき、以下の能力・資質を備えた教員を養成する。

- ・広い識見と専門性に基づいた実践的指導力を有していること
- ・変容し続ける社会において優れた問題発見力・解決能力を有していること
- ・多様な生徒の自立を促し、支えることのできる豊かなコミュニケーション能力を有していること
- ・多文化共生社会への理解及び他者を尊重し協働できる力を有していること
- ・新たな知識技術を主体的に学び続け自己を確立できる力を有していること

【上記を達成するための計画】

教職課程では、本学現代教養学部のカリキュラム・ポリシーと対応した「養成する教員像」を定め、これらの資質を備えた学生を養成するために、「教職課程コアカリキュラム」に対応した教育課程を設置する。また、教科に関する科目の単位修得を当該学科科目により無理なく履修できる学科に適切な免許種を設置することで高い専門性を備えた教員を養成する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【人文学科】

人文学科では本学の教員養成の理念、養成する教員像に従い、特に国語、英語、社会（地歴・公民）、宗教の教員を養成する。本学科の学生は、現在に至るまでの人間の知的・文化的営為と成果を人文学の方法を土台に探求する。この学習を通して、人間の文化に関する基礎的指揮を広く修め、講究の姿勢、応用能力を社会のあらゆる分野に生かし、文化の創造と社会の発展に貢献できる能力を身につける。英語分野では、国際共通語としての英語とその言語文化の広がり、英語学、英語文学・文化、英語教育という3分野を通して横断的に学ぶとともに、英語の高度な運用力と発信力を育成する。そして、そのような教育の中で培われた専門的な知識と思考力、および英語運用能力を生かし、世界の諸地域や国際化が進む日本社会に主体的に貢献できる教員を養成する。

【国際社会学科】

国際社会学科では本学の教員養成の理念、養成する教員像に従い、特に社会（地歴・公民）の教員を養成する。本学科では現代社会の多面的理解、国際社会における比較の視点、社会科学諸分野及び隣接分野の学際的融合を重視している。国際政治・国際法に加え、開発経済学・国際援助論に関して学べ、社会に対して自分で考える力を身につけることができる。また、アジア史についての多くの科目があり、日本史・世界史探究・歴史総合の導入を踏まえ、グローバル・ヒストリーを学ぶことも特色である。現代社会を日本国内のみならずグローバルな視点から考察し、未来志向の科目群を配置している。これにより、歴史的な背景も視野に入れつつ、社会の多面的な様相や諸問題を広く深く理解し、豊かな教養と専門性を備えた教員を養成する。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【人文学科 中学校一種免許状 英語】

本学現代教養学部の教育目標は教員に求められる資質との親和性が高い。人文学科の学びのうち特に英語圏の言語、文学を専門とする学生は教員としての高い資質を備え、中学校英語の教員として十分な専門知識を獲得することができる。本学科に中一種英語の課程を設置し教員を養成することは本学科の教育目標とも合致する。

【人文学科 高等学校一種免許状 英語】

本学現代教養学部教育目標は教員に求められる資質との親和性が高い。人文学科の学びのうち特に英語圏の言語、文学を専門とする学生は教員としての高い資質を備え、高等学校英語の教員として十分な専門知識を獲得することができる。本学科に高一種英語の課程を設置し教員を養成することは本学科の教育目標とも合致する。

【国際社会学科 中学校一種免許状 社会】

本学現代教養学部教育目標は教員に求められる資質との親和性が高い。国際社会学科は国際関係論、政治学、法学、地域研究、歴史学、文化人類学など主に社会科学の方法論を用いて教育研究を行う。本学科の学生は教員としての高い資質を備え、中学社会の教員として十分な専門知識を獲得することができる。本学科に中一種社会の課程を設置し教員を養成することは本学科の教育目標とも合致する。

【国際社会学科 高等学校一種免許状 地理歴史】

本学現代教養学部教育目標は教員に求められる資質との親和性が高い。国際社会学科は地域研究、歴史学、文化人類学など、高校の地理歴史科の教員として必要な知識を獲得できる授業科目が設置されている。本学科の学生は教員としての高い資質を備え、高校地理歴史の教員として十分な専門知識を獲得することができる。本学科に高一種地理歴史の課程を設置し教員を養成することは本学科の教育目標とも合致する。

【国際社会学科 高等学校一種免許状 公民】

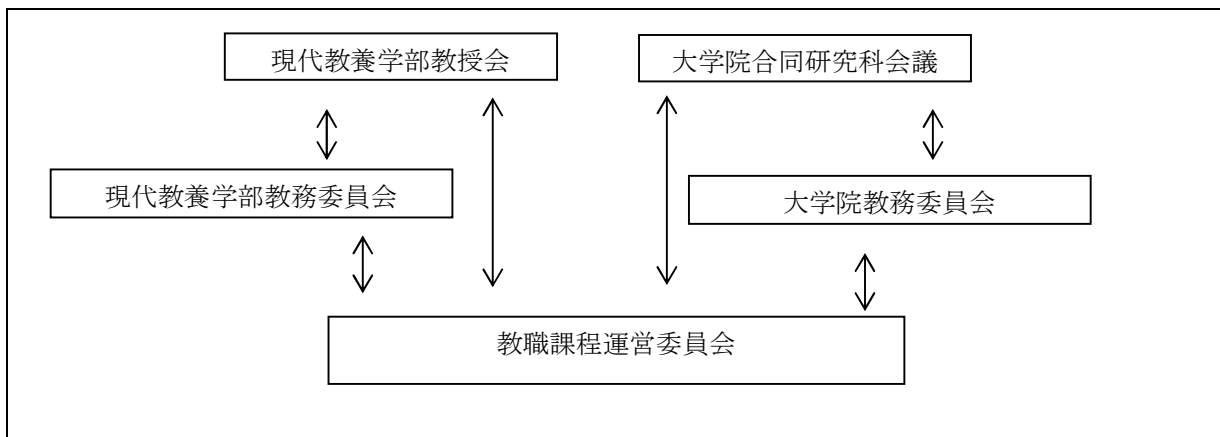
本学現代教養学部教育目標は教員に求められる資質との親和性が高い。国際社会学科は国際関係論、政治学、法学、文化人類学など高校の公民科の教員として必要な知識を獲得できる授業科目が設置されている。本学科の学生は教員としての高い資質を備え、高校公民の教員として十分な専門知識を獲得することができる。本学科に高一種公民の課程を設置し教員を養成することは本学科の教育目標とも合致する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教職課程運営委員会
目的：	現代教養学部及び大学院における教職課程の運営や教職指導を行う
責任者：	教職課程運営委員長
構成員（役職・人数）：	(1) 教職課程運営委員長（以下「委員長」という。） (2) 教職課程担当教育職員 (3) 現代教養学部国際英語学科から1名、人文学科から3名、国際社会学科から2名、数理科学科から1名 (4) 大学院人間科学研究科から4名、理学研究科から1名 (5) 学務課長
運営方法：	定例年3回（必要に応じて随時開催）の協議・連絡会議を開催。教職課程担当専任教員のうち1名が運営委員長として全体の統括・運営に当たる。教職課程と学部、大学院の間で必要な情報・提案等を共有し協議することを目的とし、個々の学生が抱える諸問題の解決や、教職課程全体の点検・改善へ向けて取り組んでいる。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

・杉並区教育委員会 済美教育センターを教職課程運営委員長 大家まゆみが訪問、教育相談担当課長 鈴木壮平氏および教育相談アドバイザー 高際尚子氏と学校ボランティアの方向性について協議。2023年度8月より、「杉並ふれあいフレンド」((2)「学校現場における体験活動・ボランティア活動等」②)を実現。 ・杉並区教育委員会 済美教育センターを教職課程運営委員長 大家まゆみと英語科教育法非常勤講師 鈴木栄氏が訪問、教育相談アドバイザー 高際尚子氏と今後の連携の方向性について協議。杉並区の児童生徒が大学図書館を利用できる企画を協議中。 ・杉並区立中央図書館と大学図書館が地域連携。同図書館で中高生を対象とする映画鑑賞会を企画。教職課程運営委員長／図書館委員 大家まゆみがファシリテーターを務める。2024年度下半期に実施予定。 ・武蔵野市教育委員会 指導課 教育推進室 森野美央氏と大学ボランティアセンター、教職課

様式第7号イ

程運営委員長 大家まゆみがメール連絡。武蔵野市立小学校の通常学級で、サポートスタッフ（SS）として発達障害等のある子どもたちを支援する「武蔵野市立小学校サポートスタッフ（SS）」（（2）「学校現場における体験活動・ボランティア活動等」①）を派遣。

・杉並区教育委員会 区立中学校校長会（連絡先：杉並区立松ノ木中学校 校長 渋谷里美氏）と大学教職課程（教職課程運営委員長 大家まゆみ）および区立中学校副校長会（連絡先：杉並区立杉森中学校 副校長 福田和子氏）が電話およびメール連絡、学生ボランティアを区立中学校に派遣（（2）「学校現場における体験活動・ボランティア活動等」③～⑦および⑪）。

・大学学務課と杉並区立 区立中学校副校長会（連絡先：杉並区立杉森中学校 副校長 福田和子氏）がメール連絡、希望する学校に学生ボランティアを派遣（（2）「学校現場における体験活動・ボランティア活動等」⑭～⑯）。

・杉並区教育委員会 区立中学校校長会（連絡先：杉並区立松ノ木中学校 校長 渋谷里美氏）と大学教職課程（教職課程運営委員長 大家まゆみ）および区立中学校副校長会（連絡先：杉並区立杉森中学校 副校長 福田和子氏）が電話およびメール連絡、「教育実習直前指導」（4年次4月）および「教職実践演習」（4年次後期：10月と1月の2回）の講演者を校長会／副校長会から選出して、ゲストスピーカーとして招聘。管理職から講演者を選出する際、杉並区教育委員会 済美教育センター 教育相談担当アドバイザー 高際尚子氏が助言し、講演内容について指導。

・東京都教育庁指導主事を「教育実習事前事後指導」（3年次後期）にゲストスピーカーとして招聘。指導主事は教育実習の心構えおよび東京都教員採用試験について講演。

・東京都教育庁とキャリアセンターが連携、東京都教員採用試験について Zoom で説明会を行う。キャリアセンターおよび教職課程運営委員長 大家まゆみが学生にメールや Google Classroom で周知、希望する学生が参加。

・東京都教育庁 東京都公立中学校校長会会長／国立市立国立第三中学校校長 山口茂氏と教職課程運営委員長 大家まゆみが、東京都公立中学校校長会元副会長／玉川大学教職大学院准教授 高岡麻美氏（本学卒業生）を通じて連携、国立第三中学校に女子バスケットボール部外部指導員を派遣（（2）「学校現場における体験活動・ボランティア活動等」⑰）。

・3月に開催する「教職に就く人の交流会」（教員内定者を大学教員と卒業生教員が祝い、交流する会）に、「教育実習直前指導」（4年次4月）および「教職実践演習」（4年次後期：10月と1月の2回）の講演者を校長会／副校長会から選出して、ゲストスピーカーとして招聘した女性管理職2名と、杉並区教育委員会 済美教育センター 教育相談担当アドバイザー 高際尚子氏を招聘。

・教職課程運営委員長 大家まゆみが作成した「教育相談」の教科書 大家まゆみ・稲垣勉『グローバル時代の教育相談—多様性の中を生きる子どもと教師』（ナカニシヤ出版、2024年2月刊行）の9章「スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの仕事：学校と地域の連携」を、大家まゆみと杉並区教育委員会 済美教育センター 教育相談担当アドバイザー 高際尚子氏が共著で執筆。

・東京女子大学教職課程が発刊する『教職・学芸員課程』第4号（2024年2月刊行）に、杉並区教育委員会 済美教育センター 教育相談担当アドバイザー 高際尚子氏が「公立中学校と学生ボランティア～地域連携～」を特別寄稿。高際尚子氏が副校長を務めてきた杉並区立中学校には、本学教職課程から過去10年以上、学生ボランティアを派遣し、同氏を「教育実習事前事後

様式第7号イ

指導」「教育実習直前指導」「教職実践演習」のゲストスピーカーとして招聘してきた経緯を、論文としてご寄稿いただいた。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	① 武蔵野市立小学校サポートスタッフ (SS)
連携先との調整方法：	武蔵野市教育委員会 指導課 教育推進室 森野美央氏と大学ボランティアセンター、教職課程運営委員長 大家まゆみがメール連絡
具体的な内容：	・武蔵野市立小学校の通常学級で、サポートスタッフ (SS) として発達障害等のある子どもたちを支援する。具体的な活動は、教室から離れてしまう子どもの安全管理・学習に取り組むのが難しい子どもへの個別の声掛け・給食・掃除等のグループ活動の支援・休み時間等の遊びの支援など。 ・教育委員会の教育アドバイザーが、SS の配置校での活動の様子を見るとともに困っていることがあれば相談を受けるなど、支援のための訪問指導を行っている。 ・年に1~2回、研修会を実施。活動の悩みの共有や失敗経験・成功体験など、学生による活発な意見交換が行われる。 ・教育アドバイザーによる助言もある。

取組名称：	② 杉並ふれあいフレンド
連携先との調整方法：	杉並区済美教育センター 教育相談担当 不登校相談支援チーム 亀崎 鎬木 高橋 三雲 足立の各氏 および 学校経営アドバイザー 高際尚子氏と教職課程運営委員長 大家まゆみがメール連絡。学生ボランティアを派遣。
具体的な内容：	・現在、不登校状態にある児童・生徒の家庭に訪問し、話をしたり、一緒に遊んだりすることで、社会とのふれあいの機会を増やしたり、一歩踏み出そうとする気持ちをサポートする。 ・適応指導教室(さざんかステップアップ教室)を訪問し、不登校児童・生徒と話したり遊んだりしながら、安心できる他者との関わりを体験してもらったり、誰かから認めてもらえる体験を持つお手伝いをする。

取組名称：	③ 杉並区立松ノ木中学校 教育ボランティア
連携先との調整方法：	杉並区立松ノ木中学校 校長 渋谷里美氏と教職課程運営委員長 大家まゆみが電話およびメール連絡。教育ボランティアを派遣。
具体的な内容：	1 ティームティーチングで授業に入って指導助手として活動 2 放課後等の補習授業の補助 3 部活動の指導助手としての活動 4 休み時間や放課後、相談相手として活動 5 学校行事などへの参加 6 その他、教員の仕事を実際に体験等

取組名称：	④ 杉並区立中学校 スキー移動教室介助員
連携先との調整方法：	杉並区立松ノ木中学校 校長 渋谷里美氏と教職課程運営委員長 大家まゆみが

様式第7号イ

電話およびメールで連絡し、渋谷校長を連絡窓口として、杉並区教育委員会 杉並区立中学校校長会と連携。希望する中学校にスキー移動教室介助員を派遣。	
具体的な内容：	・在学中に教育現場の宿泊行事を体験できる貴重な機会に、教育の意義、役割を考え、教師としての即戦力を高める。 ・杉並区立中学校スキー移動教室の介助員 長野県のスキー場で引率スタッフとして手伝い、スキー実習の班について、一緒に滑る。医療的ケアが必要な生徒に看護師とともに同行し、スキー実習を見守る。

取組名称：	⑤ 阿佐ヶ谷塾および放課後勉強会（杉並区立阿佐ヶ谷中学校）
連携先との調整方法：	杉並区立松ノ木中学校 校長 渋谷里美氏と教職課程運営委員長 大家まゆみが電話およびメールで連絡し、渋谷校長を連絡窓口として、杉並区立阿佐ヶ谷中学校 副校長 中田照子氏とメール連絡。学生ボランティアを派遣。
具体的な内容：	・阿佐ヶ谷塾 水曜日の放課後に1時間程度、数学の基礎力を養成する校内塾。生徒は最大で11名。阿佐ヶ谷中学校を退職した数学科教員が指導する。その補助として学生ボランティアを行う。 ・放課後勉強会 テスト前の3日間、放課後1時間自主学習を希望した生徒たちの見守り。生徒数は一教室につき10～30人。

取組名称：	⑥ 学習支援員（杉並区立大宮中学校）
連携先との調整方法：	杉並区立松ノ木中学校 校長 渋谷里美氏と教職課程運営委員長 大家まゆみが電話およびメールで連絡し、渋谷校長を連絡窓口として、杉並区立大宮中学校 校長 関谷誠氏とメール連絡。学習支援員を派遣。
具体的な内容：	授業の見守りと放課後の学習（居場所）の見守り

取組名称：	⑦ 不登校対応ルームのお手伝い（杉並区立大宮中学校）
連携先との調整方法：	杉並区立松ノ木中学校 校長 渋谷里美氏と教職課程運営委員長 大家まゆみが電話およびメールで連絡し、渋谷校長を連絡窓口として、杉並区立大宮中学校 校長 関谷誠氏とメール連絡。学生ボランティアを派遣。
具体的な内容：	・不登校対応ルームのお手伝い お手伝いの内容は、見守り。持参した学習ワーク等で質問を受けたら、わかる範囲で教える。お話、会話やゲーム（オセロ）の相手。

取組名称：	⑧ 児童支援員（杉並区立三谷小学校）
連携先との調整方法：	杉並区立三谷小学校 校長 榎本純子氏と英語科教育法非常勤講師 鈴木栄氏と学生有志団体「東女クロス」がメール連絡。児童支援員を派遣。
具体的な内容：	・教室で教師や児童のお手伝い ・児童が授業についていけるようにサポート

様式第7号イ

・休み時間に一緒に遊ぶ ・児童の見守り
--

取組名称：	⑨ 児童支援員（杉並区立高井戸第四小学校）
連携先との調整方法：	杉並区立高井戸第四小学校 校長 本橋忠旗氏と英語科教育法非常勤講師 鈴木栄氏、学生有志ボランティア団体「東女クロス」がメール連絡。児童支援員を派遣。
具体的な内容：	・教室で教師や児童のお手伝い ・児童が授業についていけるようにサポート ・休み時間に一緒に遊ぶ ・児童の見守り

取組名称：	⑩ 英語教育活動（杉並区立三谷小学校 6 年生）
連携先との調整方法：	杉並区立三谷小学校 校長 榎本純子氏と英語科教育法非常勤講師 鈴木栄氏、学生有志ボランティア団体「東女クロス」がメール連絡。杉並区教育委員会 済美教育センター 教育相談アドバイザー 高際尚子氏が陪席。
具体的な内容：	英語科教員を目指す学生が主体となり、6 年生に英語の授業で①世界のクリスマス（異文化紹介）②ボキャブラリー（単語の確認）③伝言ゲーム（文の暗記と伝達）を指導する。

取組名称：	⑪ 学習支援員（杉並区立西宮中学校および杉並区立中瀬中学校）
連携先との調整方法：	杉並区立松ノ木中学校 校長 渋谷里美氏と教職課程運営委員長 大家まゆみが電話およびメールで連絡し、渋谷校長を連絡窓口として、杉並区立西宮中学校校長および杉並区立中瀬中学校とメール連絡、学習支援員を派遣。
具体的な内容：	授業の見守りと放課後の学習（居場所）の見守り

取組名称：	⑫ 外国にルーツがある生徒の日本語指導ボランティア（都立田柄高校）
連携先との調整方法：	都立田柄高校 校長 山崎聡子氏（本学卒業生）と学務課教職担当、キャリアセンターがメール連絡、教職課程運営委員長 大家まゆみと英語科教育法非常勤講師 鈴木栄氏が学校訪問。学生ボランティアを派遣。
具体的な内容：	・同校の生徒の 4 割を占める、外国にルーツがある生徒の日本語指導ボランティア。 ・教職課程運営委員長 大家まゆみと鈴木栄氏が同校の文化祭を訪問し、本学卒業生で校長の山崎聡子氏と学校ボランティアの今後の方向性について協議。

取組名称：	⑬ 国立市立国立第三中学校女子バスケットボール部外部指導員
連携先との調整方法：	東京都公立中学校校長会会長／国立市立国立第三中学校校長 山口茂氏と教職課程運営委員長 大家まゆみが、東京都公立中学校校長会元副会長／玉川大学教職大学院准教授 高岡麻美氏（本学卒業生）を通じて連携。学生ボランティアを派遣。
具体的な内容：	国立市立国立第三中学校 女子バスケットボール部外部指導員

様式第7号イ

取組名称：	⑭ 杉並区立杉森中学校 学校行事の付き添い
連携先との 調整方法：	杉並区立杉森中学校 副校長 福田和子氏と学務課教職担当がメール連絡、学生ボランティアを派遣。
具体的な内 容：	・3年修学旅行（京都・奈良方面）9月12日（火）～14日（木）の付き添い介助1名。 ・2年校外学習（都内巡り）11月22日（水）の付き添い介助1名。 ・2年スキー教室（菅平）1月17日（水）～19日（金）の付き添い介助1名。 ・1年校外学習（鎌倉）1月26日（金）付き添い介助1名。

取組名称：	⑮ 杉並区立松溪中学校「放課後学習教室」の講師
連携先との 調整方法：	杉並区立松溪中学校 副校長 小川隆一氏と学務課教職担当がメール連絡、学生ボランティアを派遣。
具体的な内 容：	年間を通じて「放課後学習教室」の講師（平日16時～ 約1時間程度 曜日相談可能）

取組名称：	⑯ 国立市立国立第三中学校女子バスケットボール部外部指導員
連携先との 調整方法：	杉並区立泉南中学校 副校長 石津祐次氏と学務課教職担当がメール連絡、学生ボランティアを派遣。
具体的な内 容：	・3年修学旅行（京都・奈良方面）9月10日（日）～12日（火）の介助1名。 ・2年校外学習（都内巡り）11月2日（木）の介助1名。 ・2年スキー教室（菅平）1月29日（月）～31日（水）の介助1名。 ・運動会（6月3日（土）当日および準備期間3日間の補助員2名。

取組名称：	⑰ 国立市立国立第三中学校女子バスケットボール部外部指導員
連携先との 調整方法：	東京都公立中学校校長会会長／国立市立国立第三中学校校長 山口茂氏と教職課 程運営委員長 大家まゆみが、東京都公立中学校校長会元副会長／玉川大学教職大学院准教授 高岡麻美氏（本学卒業生）を通じて連携。学生ボランティアを派遣。
具体的な内 容：	国立市立国立第三中学校 女子バスケットボール部外部指導員

Ⅲ. 教職指導の状況

教職課程運営委員会において本学の教職指導について全学的な検討、確認を行う。 個別の学生への教職指導は教職課程専任教員（3名）と事務（学務課教職課程担当数名）が中心となり、教職課程オフィス、各学科、キャリアセンター等と連携し4年間にわたり行う。 教員養成については教職課程専任教員、所属学科の指導教員を中心に教員免許状取得に必要な授業科目の履修等の指導を行う。制度に関する相談等については学務課を中心に行う。 採用段階においては教職課程専任教員、キャリアセンターが連携し教員採用試験等への支援を行っている。教職課程オフィスには教員採用対策の関連書籍等の貸し出し等支援体制を整えている。

様式第7号ウ

<人文学科> (認定課程: 中一種免英語)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職課程を目指す学生として教職の意義及び教員の役割・職務内容を理解する。 ・教科に関する専門的事項のうち文学、英語学の基礎的な知識を習得する。 ・大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
	後期	・2年次で介護等体験を行う要件として、特別の支援を必要とする生徒のための教育課程と支援の方法を理解する。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち英語学の基礎的な知識を習得する。 ・前期に引き続き、大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
2年次	前期	・教育に関する社会的、制度的事項、教育課程の意義及び編成の方法など教育の基礎的内容を理解する。また、カウンセリングに関する基礎的な知識を含む教育相談の理論及び方法を習得する。 ・学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の基礎的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその良さを学ぶ。 ・教科に関する専門的事項のうち文学、英語コミュニケーションに関する知識を習得する。 ・4技能を教えるさまざまなテクニックを実践練習し身につける。 ・1年次に習得したアカデミックスキルをふまえ、専門分野のテキストを読んで理解し、論じ、それについて英語で書く力を身につける。
	後期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程など教育の基礎的内容を理解する。また、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を習得する。 ・学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの基礎を学ぶとともに各自の克服課題を明確にする。 ・前期に引き続き教科に関する専門的事項のうち文学、英語コミュニケーションに関する知識を習得する。 ・授業や科目の計画、モチベーションの低い生徒への対応、大人数のクラスでの授業など、クラス運営の問題について理解する。 ・前期に引き続き、短い学術的なエッセイ(その際、MLAやAPAの形式に従った引用、主題文を補強する証拠、文献目録を含む)を書く能力を向上させる。
3年次	前期	・2年間で身につけた教育の基礎的内容をふまえ、道徳教育、生徒指導・進路指導・キャリア教育の理論及び方法を習得する。 ・学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の発展的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその意義と課題を考察する。 ・教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・卒業論文執筆のための基本的な論理構成力や表現力を習得する。
	後期	・これまで身につけた教育の基礎的内容をふまえ、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法を習得する。 ・2年時の各自の克服課題を踏まえ学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの完成度を高める。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・英語圏文学文化、英語学、英語教育の諸分野を学問的に考究し、学術論文をまとめるために必要となる表現力を高め、短めの論文にまとめる力を身につける。
4年次	前期	・教育実習を行うことで、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師の在り方等を実践的に習得し、これらの知識と技術を身につける。 ・教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得する。 ・英語圏文学文化、英語学、英語教育の各学問分野の先行研究への理解を深め、研究手法についても十分に習熟する。
	後期	・これまでの教職課程の学びを省察し、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補い、中学校英語科の教員として必要な知識と技術を確実なものとする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得し、教員として十分な専門知識を習得する。 ・専門分野における重要な文献資料等の綿密な考察や、これまでに培った研究成果を適切にまとめるための論理構成力や表現力をもとに、学問的かつ社会的に意味のある卒業論文を仕上げる。卒業論文の作成を通し、知識を活用し、論理的思考力に基づいて、問題を発見し、解決する能力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

<人文学科>（認定課程：中一種免英語）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論	英語学概論A		Academic Discussion Skills A	キリスト教学入門I
			英語文化概論A		女性のウェルネス・身体運動	人文学入門
					DS・ICT入門I	人文学基礎演習
	後期	特別支援教育	英語学概論B		Academic Discussion Skills B	キリスト教学入門II
					日本国憲法	
2年次	前期	英語科教育法IA	英語文学文化史(イギリス)I	英語教育演習A	スポーツA	
		教育社会学	英語文学文化史(アメリカ)			
		教育課程論	English Seminar Writing I			
		教育相談	Exploring Content:Reading/Writing A			
			Exploring Content:Listening/Speaking A			
	後期	英語科教育法IIA	英語文学文化史(イギリス)II	英語教育演習B		
		教育原論	English Seminar Writing II			
		教育心理学	Exploring Content:Reading/Writing B			
		教育方法論(ICTの活用を含む)	Exploring Content:Listening/Speaking B			
3年次	前期	英語科教育法IB	異文化理解			人文学発展演習(英語圏文化)I
		道德教育の理論と方法	英語文学文化演習A			
		生徒・進路指導論				
	後期	英語科教育法IIB	比較文化B			人文学発展演習(英語圏文化)II
		教育実習事前事後指導	英語文学文化演習B			
		総合的な学習(探究)の時間の指導法				
		特別活動論				
4年次	前期	教育実習	英語文学文化演習C			人文学論文演習(英語圏文化)I
						卒業論文
	後期	教職実践演習(中・高)	英語文学文化演習D			人文学論文演習(英語圏文化)II
						卒業論文

様式第7号ウ

<人文学科> (認定課程: 高一種免英語)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職課程を目指す学生として教職の意義及び教員の役割・職務内容を理解する。 ・教科に関する専門的事項のうち文学、英語学の基礎的な知識を習得する。 ・大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
	後期	・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち英語学の基礎的な知識を習得する。 ・前期に引き続き、大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
2年次	前期	・教育に関する社会的、制度的事項、教育課程の意義及び編成の方法など教育の基礎的内容を理解する。また、カウンセリングに関する基礎的な知識を含む教育相談の理論及び方法を習得する。 ・学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の基礎的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその良さを学ぶ。 ・教科に関する専門的事項のうち文学、英語コミュニケーションに関する知識を習得する。 ・4技能を教えるさまざまなテクニックを実践練習し身につける。 ・1年次に習得したアカデミックスキルをふまえ、専門分野のテキストを読んで理解し、論じ、それについて英語で書く力を身につける。
	後期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程など教育の基礎的内容を理解する。また、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を習得する。 ・学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの基礎を学ぶとともに各自の克服課題を明確にする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち文学、英語コミュニケーションに関する知識を習得する。 ・授業や科目の計画、モチベーションの低い生徒への対応、大人数のクラスでの授業など、クラス運営の問題について理解する。 ・前期に引き続き、短い学術的なエッセイ(その際、MLAやAPAの形式に従った引用、主題文を補強する証拠、文献目録を含む)を書く能力を向上させる。
3年次	前期	・2年間で身につけた教育の基礎的内容をふまえ、生徒指導、進路指導、キャリア教育の理論及び方法を習得する。 ・学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の発展的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその意義と課題を考察する。 ・教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・卒業論文執筆のための基本的な論理構成力や表現力を習得する。
	後期	・これまで身につけた教育の基礎的内容をふまえ、総合的な探求の時間の指導法、特別活動の指導法を習得する。 ・2年時の各自の克服課題を踏まえ学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの完成度を高める。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・英語圏文学文化、英語学、英語教育の諸分野を学問的に考究し、学術論文をまとめるために必要となる表現力を高め、短めの論文にまとめる力を身につける。
4年次	前期	・教育実習を行うことで、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師の在り方等を実践的に習得し、これらの知識と技術を身につける。 ・教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得する。 ・英語圏文学文化、英語学、英語教育の各学問分野の先行研究への理解を深め、研究手法についても十分に習熟する。
	後期	・これまでの教職課程の学びを省察し、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補い、高等学校英語科の教員として必要な知識と技術を確実なものとする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得し、教員として十分な専門知識を習得する。 ・専門分野における重要な文献資料等の綿密な考察や、これまでに培った研究成果を適切にまとめるための論理構成力や表現力をもとに、学問的かつ社会的に意味のある卒業論文を仕上げる。卒業論文の作成を通じ、知識を活用し、論理的思考力に基づいて、問題を発見し、解決する能力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

<人文学科>（認定課程：高一種免英語）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論	英語学概論A		Academic Discussion Skills A	キリスト教学入門I
			英語文化概論A		女性のウェルネス・身体運動	人文学入門
					DS・ICT入門I	人文学基礎演習
	後期		英語学概論B		Academic Discussion Skills B	キリスト教学入門II
					日本国憲法	
2年次	前期	英語科教育法IA	英語文学文化史(イギリス)I	英語教育演習A	スポーツA	
		教育社会学	英語文学文化史(アメリカ)			
		教育課程論	English Seminar Writing I			
		教育相談	Exploring Content:Reading/Writing A			
			Exploring Content:Listening/Speaking A			
	後期	英語科教育法IIA	英語文学文化史(イギリス)II	英語教育演習B		
		教育原論	English Seminar Writing II			
		教育心理学	Exploring Content:Reading/Writing B			
		教育方法論(ICTの活用を含む)	Exploring Content:Listening/Speaking B			
3年次	前期	英語科教育法IB	異文化理解			人文学発展演習(英語圏文化)I
		生徒・進路指導論	英語文学文化演習A			
	後期	英語科教育法IIB	比較文化B			人文学発展演習(英語圏文化)II
		教育実習事前事後指導	英語文学文化演習B			
		総合的な学習(探究)の時間の指導法				
		特別活動論				
4年次	前期	教育実習	英語文学文化演習C			人文学論文演習(英語圏文化)I
						卒業論文
	後期	教職実践演習(中・高)	英語文学文化演習D			人文学論文演習(英語圏文化)II
						卒業論文

様式第7号ウ

<国際社会学科> (認定課程: 中一種免社会)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職課程を目指す学生として教職の意義及び教員の役割・職務内容を理解する。 ・教科に関する専門的事項のうち入門の知識を習得する。 ・大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
	後期	・2年次で介護等体験を行う要件として特別の支援を必要とする生徒のための教育課程と支援の方法を理解する。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち入門の知識を習得する。 ・前期に引き続き、大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
2年次	前期	・教育に関する社会的、制度的事項、教育課程の意義及び編成の方法など教育の基礎的内容を理解する。また、カウンセリングに関する基礎的な知識を含む教育相談の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の基礎的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその良さを学ぶ。 ・教科に関する専門的事項のうち概論に関する知識を習得する。 ・1年次に習得したアカデミックスキルを確実なものとするともに、学科のディシプリンの基礎を理解する。
	後期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程など教育の基礎的内容を理解する。また、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの基礎を学ぶとともに各自の克服課題を明確にする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち概論に関する知識を習得する。 ・前期に身につけた学科のディシプリンの基礎をふまえた小論文を書く力を習得する。
3年次	前期	・2年間で身につけた教育の基礎的内容をふまえ、道徳教育、生徒指導・進路指導・キャリア教育の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の発展的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその意義と課題を考察する。 ・教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・卒業論文を念頭に専門研究に必要な方法を習得する。
	後期	・これまで身につけた教育の基礎的内容をふまえ、総合的な学習の時間の指導法、特別活動の指導法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、2年時の各自の克服課題を踏まえ学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの完成度を高める。 ・前期に引き、続き教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・卒業論文を念頭に専門研究に必要な方法を習得し、ゼミ論文を作成する。
4年次	前期	・教育実習を行うことで、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師の在り方等を実践的に習得し、これらの知識と技術を身につける。 ・教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得する。 ・学科の専門教育の集大成である卒業論文執筆の準備を進める。
	後期	・これまでの教職課程の学びを省察し、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補い、中学校社会科の教員として必要な知識と技術を確実なものとする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得し、教員として十分な専門知識を習得する。 ・学科の専門教育の集大成である卒業論文を完成させる。卒業論文の作成を通し、知識を活用し、論理的思考力に基づいて、問題を発見し、解決する能力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

<国際社会学科>（認定課程：中一種免社会）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職論	グローバルヒストリー（西洋史概論）		Academic Discussion Skills A	基礎演習（国際社会）I
			キリスト教学入門I		女性のウェルネス・身体運動	
			国際関係論I		DS・ICT入門I	
			文化人類学I			
	後期	特別支援教育	中国の社会と文化（東洋史概論）		Academic Discussion Skills B	基礎演習（国際社会）II
			キリスト教学入門II		日本国憲法	
			国際関係論II			
			文化人類学II			
2年次	前期	社会・地理歴史科教育法I	法学概論		スポーツA	2年次演習（国際社会）I
		教育社会学	人文地理学			
		教育課程論	哲学概論			
		教育相談	ミクロ経済学入門			
	後期	社会・地理歴史科教育法II	朝鮮の社会と文化（東洋史概論）			2年次演習（国際社会）II
		教育原論	日本の社会と文化（日本史概論）			
		教育心理学	政治学概論			
		教育方法論（ICTの活用を含む）	地誌学			
			マクロ経済学入門			
3年次	前期	社会・公民科教育法I	自然地理学			3年次演習（国際社会）I
		道徳教育の理論と方法	社会学のあゆみI			
		生徒・進路指導論	近現代日本研究I			
	後期	社会・公民科教育法II	社会学のあゆみII			3年次演習（国際社会）II
		教育実習事前事後指導	近現代日本研究II			
		総合的な学習（探究）の時間の指導法				
		特別活動論				
4年次	前期	教育実習	中国研究I			4年次演習（国際社会）I
						卒業論文
	後期	教職実践演習（中・高）	中国研究II			4年次演習（国際社会）II
						卒業論文

様式第7号ウ

<国際社会学科> (認定課程: 高一種免地理歴史)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職課程を目指す学生として教職の意義及び教員の役割・職務内容を理解する。 ・教科に関する専門的事項のうち入門の知識を習得する。 ・大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
	後期	・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち入門の知識を習得する。 ・前期に引き続き、大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
2年次	前期	・教育に関する社会的、制度的事項、教育課程の意義及び編成の方法など教育の基礎的内容を理解する。また、カウンセリングに関する基礎的な知識を含む教育相談の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の基礎的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその良さを学ぶ。 ・教科に関する専門的事項のうち概論に関する知識を習得する。 ・1年次に習得したアカデミックスキルを確実なものとするともに、学科のディシプリンの基礎を理解する。
	後期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程など教育の基礎的内容を理解する。また、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの基礎を学ぶとともに各自の克服課題を明確にする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち概論に関する知識を習得する。 ・前期に身につけた学科のディシプリンの基礎をふまえた小論文を書く力を習得する。
3年次	前期	・2年間で身につけた教育の基礎的内容をふまえ、生徒指導、進路指導、キャリア教育の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の発展的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその意義と課題を考察する。 ・教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・卒業論文を念頭に専門研究に必要な方法を習得する。
	後期	・これまで身につけた教育の基礎的内容をふまえ、総合的な探求の時間の指導法、特別活動の指導法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、2年時の各自の克服課題を踏まえ学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの完成度を高める。 ・前期に引き、続き教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・卒業論文を念頭に専門研究に必要な方法を習得し、ゼミ論文を作成する。
4年次	前期	・教育実習を行うことで、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師の在り方等を実践的に習得し、これらの知識と技術を身につける。 ・教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得する。 ・学科の専門教育の集大成である卒業論文執筆の準備を進める。
	後期	・これまでの教職課程の学びを省察し、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補い、高等学校地理歴史科の教員として必要な知識と技術を確実なものとする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得し、教員として十分な専門知識を習得する。 ・学科の専門教育の集大成である卒業論文を完成させる。卒業論文の作成を通し、知識を活用し、論理的思考力に基づいて、問題を発見し、解決する能力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜国際社会学科＞（認定課程：高一種免地理歴史）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職論	グローバルヒストリー（西洋史概論）		Academic Discussion Skills A	基礎演習（国際社会）I
					女性のウェルネス・身体運動	キリスト教学入門I
					DS・ICT入門I	国際社会論I
						文化人類学I
	後期	特別支援教育	中国の社会と文化（東洋史概論）		Academic Discussion Skills B	基礎演習（国際社会）II
					日本国憲法	キリスト教学入門II
						国際社会論II
						文化人類学II
2年次	前期	教育社会学	人文地理学		スポーツA	2年次演習（国際社会）I
		教育課程論	アメリカ史I			社会・公民科教育法I
		教育相談	国際関係史			
	後期	教育原論	朝鮮の社会と文化（東洋史概論）			2年次演習（国際社会）II
		教育心理学	日本の社会と文化（日本史概論）			社会・公民科教育法II
		教育方法論（ICTの活用を含む）	地誌学			
			アメリカ史II			
3年次	前期	社会・地理歴史科教育法I	自然地理学			3年次演習（国際社会）I
		生徒・進路指導論	日本政治外交史I			
			近現代日本研究I			
	後期	社会・地理歴史科教育法II	日本政治外交史II			3年次演習（国際社会）II
		総合的な学習（探究）の時間の指導法	近現代日本研究II			
		特別活動論				
		教育実習事前事後指導				
4年次	前期	教育実習	アメリカ研究（社会史）I			4年次演習（国際社会）I
						卒業論文
	後期	教職実践演習（中・高）	アメリカ研究（社会史）II			4年次演習（国際社会）II
						卒業論文

様式第7号ウ

＜国際社会学科＞（認定課程：高一種免公民）

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	・教職課程を目指す学生として教職の意義及び教員の役割・職務内容を理解する。 ・教科に関する専門的事項のうち入門の知識を習得する。 ・大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
	後期	・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち入門の知識を習得する。 ・前期に引き続き、大学での学修に必要なアカデミックスキルを習得する。
2年次	前期	・教育に関する社会的、制度的事項、教育課程の意義及び編成の方法など教育の基礎的内容を理解する。また、カウンセリングに関する基礎的な知識を含む教育相談の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の基礎的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその良さを学ぶ。 ・教科に関する専門的事項のうち概論に関する知識を習得する。 ・1年次に習得したアカデミックスキルを確実なものとするともに、学科のディシプリンの基礎を理解する。
	後期	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想、幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程など教育の基礎的内容を理解する。また、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの基礎を学ぶとともに各自の克服課題を明確にする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち概論に関する知識を習得する。 ・前期に身につけた学科のディシプリンの基礎をふまえた小論文を書く力を習得する。
3年次	前期	・2年間で身につけた教育の基礎的内容をふまえ、生徒指導、進路指導、キャリア教育の理論及び方法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、学習指導要領の「目標」「内容」を中心に教科指導の理念と方法の発展的理解をはかるとともに、優れた授業実践例を通してその意義と課題を考察する。 ・教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・卒業論文を念頭に専門研究に必要な方法を習得する。
	後期	・これまで身につけた教育の基礎的内容をふまえ、総合的な探求の時間の指導法、特別活動の指導法を習得する。 ・社会科系教科教育法で、2年時の各自の克服課題を踏まえ学習指導案を作成して模擬授業を行ない、授業づくりの完成度を高める。 ・前期に引き、続き教科に関する専門的事項についてより専門的な知識を習得する。 ・卒業論文を念頭に専門研究に必要な方法を習得し、ゼミ論文を作成する。
4年次	前期	・教育実習を行うことで、教育の理論、教科指導と教科外指導の方法や意義、学校経営と学校管理、教師の在り方等を実践的に習得し、これらの知識と技術を身につける。 ・教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得する。 ・学科の専門教育の集大成である卒業論文執筆の準備を進める。
	後期	・これまでの教職課程の学びを省察し、各自が到達しきれていない点を適切に把握し補い、高等学校公民科の教員として必要な知識と技術を確実なものとする。 ・前期に引き続き、教科に関する専門的事項のうち専門的な知識を習得し、教員として十分な専門知識を習得する。 ・学科の専門教育の集大成である卒業論文を完成させる。卒業論文の作成を通し、知識を活用し、論理的思考力に基づいて、問題を発見し、解決する能力を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

<国際社会学科>（認定課程：高一種免公民）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	前期	教職論	キリスト教学入門I		Academic Discussion Skills A	基礎演習(国際社会)I
			国際関係論I		女性のウェルネス・身体運動	
			文化人類学I		DS・ICT入門I	
	後期	特別支援教育	キリスト教学入門II		Academic Discussion Skills B	基礎演習(国際社会)II
			国際関係論II		日本国憲法	
			文化人類学II			
2年次	前期	教育社会学	法学概論		スポーツA	2年次演習(国際社会)I
		教育課程論	哲学概論			社会・地理歴史科教育法I
		教育相談	ミクロ経済学入門			
	後期	教育原論	政治学概論			2年次演習(国際社会)II
		教育心理学	マクロ経済学入門			社会・地理歴史科教育法II
		教育方法論(ICTの活用を含む)				
3年次	前期	社会・公民科教育法I	社会学のあゆみI			3年次演習(国際社会)I
		生徒・進路指導論	中国研究I			
	後期	社会・公民科教育法II	社会学のあゆみII			3年次演習(国際社会)II
		総合的な学習(探究)の時間の指導法	中国研究II			
		特別活動論				
		教育実習事前事後指導				
4年次	前期	教育実習	周縁世界とグローバル化I			4年次演習(国際社会)I
						卒業論文
	後期	教職実践演習(中・高)	周縁世界とグローバル化II			4年次演習(国際社会)II
						卒業論文